

平成19年6月1日

各都道府県教育委員会国際教育担当主管課長
各都道府県(高等学校)国際教育研究協議会会長
各都道府県(高等学校)国際教育研究協議会事務局長
各都道府県各高等学校長
各都道府県各高等学校国際教育担当教諭
各関係諸機関所属長
各関係諸機関各位

全国国際教育研究協議会会長
東京都立神代高等学校長
長谷川 賢



第44回全国国際教育研究大会会長
島根県高等学校国際教育研究協議会会長
島根県立出雲農林高等学校長
佐野 明

第44回全国国際教育研究大会 島根大会のご案内

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、高等学校における国際教育の推進および本会の活動につきまして、ご理解とご協力をたまわり、深く感謝申し上げます。

さて、標記の第44回全国国際教育研究大会を、下記のとおり、本年8月23・24日の2日間にわたり島根県出雲市で開催する運びとなりました。

つきましては、大会の趣旨をご理解いただき、関係教職員および担当職員等の参加に、格別のご高配をたまわり、多数ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

記

1. 第44回全国国際教育研究大会島根大会開催要項
2. 第27回高校生英語弁論大会開催要項
3. 第7回留学生日本語弁論大会開催要項
4. 大会参加申込書
5. 宿泊申込みなど

第44回全国国際教育研究大会 島根大会要項

大会テーマ「日本人の心のみえる国際交流のありかた」

1. 大会趣旨

さまざまな地域、学校などが実施している国際交流事業を、国際社会で求められる能力・態度を持った人材の育成に結びつけるためには、国際教育を取り巻く現状と課題について、研究を深める必要がある。

そこで今大会では、自らの国の伝統・文化に根ざしたアイデンティティを踏まえた国際理解、異文化を偏見なく受容・共生しパートナーシップを形成する能力の育成、明確な目的意識を持った交流のありかたなどについて考えていきたい。

2. 主催

全国国際教育研究協議会

島根県高等学校国際教育研究協議会

3. 共催

島根県教育委員会(申請中)

4. 後援

外務省・文部科学省・独立行政法人国際協力機構・日本国際協力センター・国際協力銀行・国際交流基金・出雲市・出雲市教育委員会・(財)しまね国際センター・AFS 日本協会(申請予定)

5. 日時

平成19年8月23日(木) 9:30～17:30

平成19年8月24日(金) 9:30～12:30

6. 会場

ビッグハート出雲(島根県出雲市駅南町 1-5、tel(0853)20-2888)(JR 出雲市駅南口から徒歩1分)

7. 参加対象

全国国際教育研究協議会加盟校の教職員および生徒

第27回高校生英語弁論大会出場生徒および引率者・保護者

第7回留学生日本語弁論大会出場生徒および引率者・保護者

国際協力・交流・理解、開発教育等に関心のある生徒および保護者

国際教育関係諸機関の職員

国際教育や開発教育にかかわるNGOおよびNPOの職員・関係者

8. 大会日程

第1日目 8月23日(木)

9:00～9:30 受付

9:30～9:50 開会式(白のホール)

開式の言葉	大会副会長	白石 隆子(松江市立女子高等学校長)
主催者挨拶	大会会長	佐野 明(島根県立出雲農林高等学校校長)
	全国会長	長谷川 賢(東京都立神代高等学校長)
後援者挨拶		国際協力銀行

功労者感謝状贈呈

閉式の言葉	大会副会長	白石 隆子(松江市立女子高等学校長)
諸連絡	大会事務局長	

9:55～10:55 全体会①(白のホール)

研究実践発表・協議

「中国との交流を中心に」 発表者 山本康治(松江市立女子高等学校教諭)
司会 島根県立出雲高等学校教諭
記録 島根県立出雲高等学校教諭
吉川靖(島根県立出雲農林高等学校教諭)

11:00～12:30 分科会

第1分科会:研究実践発表・協議(白のホール)

A.「手作り竹とんぼ海を渡る」 発表者 尾原美香(島根県立松江工業高等学校教諭)
B.「アジア農業高校留学生 発表者 関口 誠(群馬県立勢多農林高等学校教諭)
受入事業から広がる交流」 指導助言 広原啓視(島根県立大社高等学校校長)
司会 島根県立大社高等学校教諭
記録 島根県立大社高等学校教諭

第2分科会:参加型・実践型ワークショップ(黒のスタジオ)

ファシリテーター(JICA依頼中)
アシスタント 島根県立出雲商業高等学校教諭
記録 島根県立出雲商業高等学校教諭

12:30～13:30 昼食・休憩(白のホール)

(12:00～12:30 弁論大会出場の生徒の事前説明会、審査要領説明(レセプションスペース))

(12:30～13:00 高校生英語・日本語弁論大会審査員会議、審査要領説明(会議室))

13:30～15:30 弁論大会(白のホール、司会:島根県立出雲農林高等学校放送部)

開式の言葉 海外研究部部長 木色秋香(島根県立出雲農林高等学校)
主催者挨拶および 大会会長 佐野 明(島根県立出雲農林高等学校校長)
審査員紹介

審査委員長(英語) 杉田伸樹(外務省国際協力局審議官)
審査委員長(日本語) 合田隆史(文部科学省審議官)
審査員(英・日) 菅野貢輝(国際交流基金)
審査員(英・日) 中村俊介(日本国際協力センター)
審査員(英・日) 独立行政法人国際協力機構
審査員(英語) 飯塚祐司(島根県教育庁高校教育課指導主事)
審査員(日本語) 小村正昭(島根国文学会事務局長)

弁論発表 高校生英語弁論大会 10名
留学生日本語弁論大会 6名

閉式の言葉 海外研究部部長 木色秋香(島根県立出雲農林高等学校)

(15:30～16:00 弁論大会審査・選考(会議室))

15:35～17:30 全体会②(白のホール)

(1)第1分科会報告(15:35-15:50)

報告者 島根県立大社高等学校教諭

(2)研究実践発表・協議(15:50-16:35)

「ウズベキスタン 発表者 三谷圭一(島根県立出雲農林高等学校教諭)
国際貢献旅行」 指導助言 広原啓視(島根県立大社高等学校校長)
司会 島根県立出雲高等学校教諭
記録 島根県立出雲高等学校教諭
吉川靖(島根県立出雲農林高等学校教諭)

(3) シンポジウム「日本人の心が見える国際交流のありかた」(16:35-17:30)

パネリスト 全体会発表者: 山本康治 (松江市立女子高等学校教諭)
全体会発表者: 三谷圭一 (島根県立出雲農林高等学校教諭)
分科会発表者: 尾原美香 (島根県立松江工業高等学校教諭)
分科会発表者: 関口 誠 (群馬県立勢多農林高等学校教諭)
参加型・実践型ワークショップ ファシリテーター
鈴木健夫 (日本国際協力センター)
国際協力銀行
コーディネーター 山藤美之 (島根県立益田養護学校教頭)
記録 島根県立出雲高等学校教諭
吉川靖 (島根県立出雲農林高等学校教諭)

(17:30~18:00 全国事務局長会議(会議室))

18:30~20:00 教育懇談会・情報交換会

(ツインリーブズホテル出雲(出雲市駅北町4-1)・参加費5000円)

第2日目 8月24日(金)

9:00~ 9:30 受付

9:30~12:20 大会式典(白のホール)

- (1) 開式のことば 大会副会長 柴田 博(島根県立益田高等学校長)
- (2) オープニングイベント 出農太鼓(島根県立出雲農林高等学校出農太鼓部)(9:30-9:50)
- (3) 主催者・来賓挨拶等(9:55-10:15)
- 主催者挨拶 大会会長 佐野 明(島根県立出雲農林高等学校長)
- 来賓挨拶 杉田伸樹(外務省国際協力局審議官)
合田隆史(文部科学省審議官)
藤原義光(島根県教育委員会教育長)
- 来賓紹介 大会会長 佐野 明(島根県立出雲農林高等学校長)
- (4) 弁論大会結果発表(10:20-10:50)
- 審査発表・講評 審査委員長
英語弁論(外務大臣賞)、日本語弁論(文部科学大臣奨励賞)の受賞者による弁論発表
表彰式
- (5) 研究協議のまとめ(全体会報告)(10:50-11:05)
- 報告者 吉川靖(島根県立出雲農林高等学校教諭)
- (6) 記念講演会(11:10-12:15)
- 講師紹介 大会副会長 柴田 博(島根県立益田高等学校長)
- 講師 中村俊郎(中村ブレイス株式会社代表取締役社長)
- 演題 「空想の翼で駆けて」
- 謝辞 大会副会長 柴田 博(島根県立益田高等学校長)

12:20~12:30 閉会式(白のホール)

開式のことば 大会副会長 白石 隆子(松江市立女子高等学校長)

開催県あいさつ 大会副会長 尾村 幸行(島根県立江津高等学校長)

次期開催県あいさつ 次期開催県会長 坂巻 守男(埼玉県立春日部女子高等学校長)

閉式のことば 大会副会長 白石 隆子(松江市立女子高等学校長)

諸連絡 大会事務局長

9. 記念講演講師プロフィール



昭和23年(1948)2月20日、島根県大田市生まれ。

昭和49年(1974)12月20日、中村ブレイスを創業。

高校を卒業するとき自活できる仕事で、他の人がやっていないような仕事に就きたいと考え、当時病院に勤めていた姉夫婦から紹介された義肢装具士という仕事を目指すことにしました。京都と米国カリフォルニア州での義肢装具製作の研修・留学を経て、郷里である大田市大森町に U ターンして只一人で起業しました。当時大森町は人口 650 人(現在 500 人)、自宅前の 10 坪(33 平方 m)の納屋を改装しただけの仕事場で、全てに厳しい状況下でのスタートでした。義肢装具は障害を受けた方に処方され、製作する医療用具です。人々の元気の「もと」となることを願

い、そして過疎化のすすむ史跡の町”石見銀山”再生の一助になればと、社員とともに一丸となって努力を続けてまいりました。昭和 57 年(1982)に法人化(株式会社)し、今日、日本国内の医療機関・義肢装具製作会社、さらに海外の多くの国々とも交流するまでに発展することができました。

主な経歴

装具士補(米国、ABC)	1974.10.3～
義肢装具士(厚生省)	1989.11.30～
マレーシア国立マラヤ大学病院客員講師	1992.02～
国際義肢装具連盟(Interbor)日本代表理事	1995.07～
石見銀山資料館(大森町) 理事長	2000.05～
島根県教育委員会委員長	2001.10～2006.10
島根大学客員教授	2004.05～

主な賞歴

- 1993年 第1回中国地域ニュービジネス大賞企業大賞(グランプリ)受賞
第4回日本ニュービジネス大賞優秀賞受賞
- 1994年 第10回日本義肢装具学会学術大会飯田賞(グランプリ)受賞
- 1995年 地域活性化貢献企業特別賞(日本経済新聞社主催)受賞
第29回地域開発賞産業省(山陰中央新報社主催)受賞
- 1998年 国際交流表彰(島根県)
- 2006年 経済産業省感謝状「明日の日本を支える元気なモノ作り中小企業300社」
文部科学大臣表彰

著書

- 1984年 写真集『大森』(岡田印刷出版)
- 1995年 『空想の翼で駆け現実の山野を往かん』(創業20周年記念)朝日新聞社編集出版センター

中村ブレイスがモデル・舞台になっている作品

- 『草原の風になりたい』児童文学 村尾靖子著(1998年岩崎書店)
～モンゴルの大草原火災で、一瞬にして両足を失ったモンゴル少年との交流物語～
- 『よみがえるおっぱい—義肢装具士 中村俊郎の挑戦—』千葉望著(2000年 海拓舎)
- 『「アイ・ラブ・ピース」への道』千葉望著(2004年 海拓舎)
- 映画『アイ・ラブ・ピース』大澤豊監督(2003年「アイ・ラブ・ピース」製作上映委員会)
～主演の忍足亜希子演ずる義肢装具士とアフガンで地雷禍に遭った少女との愛の交流が描かれる話題作品～

10. 大会参加申込み方法

申込書を <http://www.shimanet.ed.jp/izuno/kokusai/> からダウンロードし、必要事項を記入の上、大会事務局の申込み担当宛てにメールに添付してお送り下さい。参加には、大会資料費2000円が必要です。支払いは振り込みでお願いします。7月20日締切りです。

申込み担当： 松尾 甲(島根県立出雲農林高等学校教諭) matsuo-ko@shimanet.ed.jp

諸経費振込先： 銀行名 山陰合同銀行高松代理店 普通
口座名 出農国際教育 松尾 甲(まつお こう)
口座番号 3608938

11. 大会事務局

島根県高等学校国際教育研究協議会事務局長 野口 里美
島根県立出雲農林高等学校 (〒693-0046 島根県出雲市下横町950番地)
Tel 0853-28-0321 FAX0853-28-0355
Mail satomi_noguchi@shimanet.ed.jp

12. 大会役員

大会会長	佐野 明	全国国際教育研究協議会副会長 島根県高等学校国際教育研究協議会会長 (島根県立出雲農林高等学校長)
大会副会長	尾村幸行	島根県高等学校国際教育研究協議会副会長 (島根県立江津高等学校長)
大会副会長	柴田 博	島根県高等学校国際教育研究協議会副会長 (島根県立益田高等学校長)
大会副会長	白石隆子	島根県高等学校国際教育研究協議会副会長 (松江市立女子高等学校長)
大会副会長	次期開催県 坂巻守男	埼玉県高等学校国際教育研究協議会会長 (埼玉県立春日部女子高等学校長)
大会顧問	長谷川 賢	全国国際教育研究協議会会長 東京都国際教育研究協議会会長 (東京都立神代高等学校長)
大会運営理事	広原啓視	島根県高等学校国際教育研究協議会理事 (島根県立大社高等学校校長)
	坂巻守男	埼玉県高等学校国際教育研究協議会会長 (埼玉県立春日部女子高等学校長)
	山藤美之	(島根県立益田養護学校教頭)
大会運営委員	野口里美(事務局)	(島根県立出雲農林高等学校教諭)
	錦織 稔(事務局)	(島根県立出雲農林高等学校教諭)
	山本真澄(事務局)	(島根県立出雲農林高等学校教諭)
	松尾 甲(事務局)	(島根県立出雲農林高等学校教諭)

第27回高校生英語弁論大会開催要項

1 目的

21世紀を担う高校生が、国際理解・国際交流、国際協力、国際ボランティア活動などに関する主張を、英語で発表することにより、国際教育への興味・関心を高めるとともに、国際感覚豊かな生徒の育成を目指す。

2 日時

平成19年8月23日(木) 13:30～15:30(弁論大会)

*発表者は事前説明を行いますので12:00までにお越し下さい

平成19年8月24日(金) 10:20～10:50(結果発表および外務大臣賞受賞者による発表)

3 会場

ビッグハート出雲 島根県出雲市今市町994-2

4 次第

〈第1日目 8月23日(木)〉

- ・開会の言葉
- ・主催者挨拶及び審査委員紹介
- ・弁論発表
- ・閉会の言葉

〈第2日目 8月24日(金)〉

- ・審査発表・講評
- ・外務大臣賞の受賞者による弁論発表
- ・表彰式

5 参加者

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 大会開催県代表 | 1名 |
| (2) 関東甲信越静地区 | 2名 |
| (3) 関東甲信越静以外のブロック | 各1名 |

6 参加資格

- (1) 各都道府県(高等学校)国際教育研究協議会加盟国の生徒
- (2) 各都道府県・各ブロックにおける選考会を経て選出された生徒

7 大会規定

- (1) 弁論内容…国際教育、国際交流、国際協力、国際ボランティア活動に関するもの。演題は自由。高校生としての主張を含み、未発表原稿であること。
- (2) 弁論時間…4分30秒以上・5分以内(4分30秒未満及び5分超過は減点)
- (3) 審査内容…論旨(60点)・態度(20点)・音声(20点)を総合して審査する。
- (4) 表彰
外務大臣賞 (1名)
文部科学大臣奨励賞 (1名)

国際協力機構理事長賞	(1 名)
国際交流基金理事長賞	(1 名)
日本国際協力センター賞	(1 名)
全国国際教育研究協議会会長賞	(若干名)

8 審査委員 外務省、国際協力機構、国際交流基金、日本国際協力センター、
島根県教育委員会

9 発表原稿の提出のお願い

(1)発表原稿を開催要項(大会冊子)に掲載致しますので、下記の様式で作成し、7月7日までに大会事務局の弁論大会原稿担当宛てにメールでお送り下さい。

(2)原稿の様式など

ア 枚数 片面 1 枚 イ 1 行文字数 全角 40 文字MS明朝

ウ 1 ページ行数 40 行(日本語要旨を下部に 5 行記入してください)

エ 用紙 A4縦方向

オ 1 行目にはテーマ、2 行目には正式な学校名・学年・氏名を記入してください。

カ ページ数の記入は不要です。

キ 原稿は必ずワードにて作成し次のアドレスにメール添付で送付して下さい。

masumi_yamamoto@shimanet.ed.jp 弁論大会原稿担当 山本 真澄

* メール の 件名 : 原稿_学校の正式名称

* 添付ファイル名 : 原稿_学校の正式名称

原稿の記入例

(1 行目)	テーマ
(2 行目)	〇〇県〇〇高等学校〇年 〇〇〇〇
〇〇〇.....
日本語要旨	〇〇〇.....
.....

10 申込み

<http://www.shimanet.ed.jp/izuno/kokusai/>からダウンロードした申込書に必要事項を記入し、大会事務局の申し込み担当宛てにメールに添付してお送り下さい。

matsuo-ko@shimanet.ed.jp 申込み担当 松尾 甲

第7回留学生日本語弁論大会開催要項

1 目的

従来、英語弁論大会において、日本の高校生が自分の国際理解を英語で世界に向け発信するという一方向を実践してきたが、国際理解を深めるためには、逆の方向、世界からの発信を受ける方向も模索して行かなくては相互理解と言えない。そこで、日本で生活している留学生たちが感じた、外国人からみた日本を率直に日本語で表現してもらうことにより、多文化共生のための国際相互理解を深めることを主な目的とする。

2 日時

平成19年8月23日(木) 13:30～15:30(弁論大会)

*発表者は事前説明を行いますので12:00までにお越し下さい

平成19年8月24日(金) 10:20～10:50

(結果発表および文部科学大臣奨励賞受賞者による弁論発表)

3 会場

ビッグハート出雲 島根県出雲市今市町994-2

4 次第

〈第1日目 8月23日(木)〉

・開会のことば ・主催者挨拶及び審査委員紹介 ・弁論発表 ・閉会のことば

〈第2日目 8月24日(金)〉

・審査発表・講評 ・文部科学大臣奨励賞受賞者による弁論発表 ・表彰式
--

5 参加者

- (1) 大会開催県代表 1名
(2) 各ブロック(関東甲信越静を含む) 各1名

※参加人数は7名を予定しているが、過不足が生じた場合、大会事務局で調整し弾力的に運営する。

6 参加資格

- (1) 各都道府県高等学校国際教育研究協議会の加盟校に留学している生徒
(2) 各都道府県高等学校国際教育研究協議会の会長が前項に準ずると認めた生徒
(3) 各都道府県・各ブロックおける選考会を経て選出された生徒

(※ 大会時に日本に滞在していること)

7 大会規定

- (1) 弁論内容…国際理解、国際協力、異文化理解、多文化共生に関すること。高校生としての主張を含み、未発表原稿であること。
- (2) 弁論時間…4分30秒以上5分以内(4分30秒未満及び5分超過は減点)
- (3) 審査内容…論旨(60点)・態度(20点)・音声(20点)を総合して審査判断する。
- (4) 表彰…外務大臣賞、文部科学大臣奨励賞等、英語弁論大会に準ずる。

8 審査委員 文部科学省、国際協力機構、国際交流基金、日本国際協力センター、
島根県教育委員会

9 発表原稿の提出のお願い

(1)発表原稿を開催要項(大会冊子)に掲載致しますので、下記の様式で作成し、(7月7日)までに大会事務局の弁論大会原稿担当宛てにメールでお送り下さい。

(2)原稿の様式など

- ア 枚数 片面1枚 1600字以内
- イ 1行文字数 全角 40文字MS明朝
- ウ 1ページ行数 40行
- エ 用紙 A4縦方向
- オ 1行目にはテーマ、2行目には正式な学校名・学年・氏名を記入してください。
- カ ページ数の記入は不要です
- キ 原稿は必ずワードにて作成し次のアドレスにメール添付で送付して下さい。

masumi.yamamoto@shimanet.ed.jp 弁論大会原稿担当 山本 真澄

* メール の 件名 : 原稿__学校の正式名称

* 添付ファイル名 : 原稿__学校の正式名称

原稿の記入例

(1行目)	テーマ
(2行目)	〇〇県〇〇高等学校〇年 〇〇〇〇
	〇〇〇.....

10 申込み

<http://www.shimanet.ed.jp/izuno/kokusai/>からダウンロードした申込書に必要事項を記入し、大会事務局の申込み担当宛てにメールに添付してお送り下さい。

matsuo-ko@shimanet.ed.jp 申込み担当 松尾 甲